

「笹川杯作文コンクール 2009」～日本語で応募～ 優秀賞作品

※日本語の原文を尊重し、一切手を加えておりません。

日本人は本当に働き蜂？

常熟理工学院 孫晶晶



私は中学生だった頃から、よく「日本人は働き蜂」という言い方を耳にしました。また、「日本人にとって、幸福というものは、食事をさっさと終えて、再び働き始めた時」と言われるぐらいですが、実はどういう程度まで詳しくわからなかったのです。

この間、私は常熟山崎鉄工株式会社に入って通訳として実習していました。だんだん日本人との接触が増えていくにつれて、日本人の真面目さが深くわかるようになりました。例えば、機械の立会い検査をする時、材質確認、寸法検査から気密、圧力、溶接線の検査まで、小さい所でもこと細かにチェックしました。そして、日本人は仕事中に休むことはあまり好ましくないということが気付きました。一方、日本人は服装に対しても非常に真面目です。どんな場所にどんな服を着ていくか気を配ります。特にサラリーマンは毎日シャワーを浴びて、スーツを着て、ネクタイをします。たとえ汗をかく真夏でも清潔な服を着ます。工作中、会社の制服を着なければならないのです。あの真面目な精神は本当に頭が下がります。

そのほかに、日本人は、商品の品質、交通ルール、人間関係の面でも比較的まじめな面なのです。例えば、日本人は赤信号を無視しないようにしています。また、人間関係に対して、年配者と若者、先生と生徒、上司と部下の間などの区別をはっきり分けています。お互いにあった時や別れる時、45度くらいのお辞儀をしなければなりません。

それに、日本人が日常生活の中で、「頑張る」という言葉を極頻繁に使っていることが分ってきたのです。ある時、日本語で、何かを話したいのですが、どうしても話せなかった時「頑張って」というような言葉が言われてくれました。勉強や仕事の場合だけでなく、スポーツをするときでも、よく「がんばれ」励まされたりするのです。思うに、実習していた間、日本人からのイーメールの文末などにも「頑張れ」を言い忘れません。「がんばれ」は日本人が生れつき持っているもののようです。日本社会全体も日本の国民も、いつも「頑張る」の雰囲気にも包まれているようです。

ある夜、日本からのお客様と一緒に晩御飯を食べていた時、「日本人は本当に真面目で、働き蜂といってもいいようですね。」と私は感嘆しましたが、お客様は「そうですか。かつて、日本は働き蜂の国として世界で有名でしたが、最近、大きくかわってきました。まあ、、、、」と返事してくれました。その通りですが、昔の日本人の仕事に対する情熱を見ると、確かに彼らのことを「働き蜂」だというのは過言ではありません。

しかし、社会全体が豊かになっていくにつれて、日本人の仕事への関心はだんだん生活の質の問題へと移っていったのです。かつて、敗戦の廃墟からいち早く立ち上がった日本の経済の大発展を支えた終身雇用制度も、最近になって変わりつつあります。自分の人生を一つの会社だけに結びつける考えはもうなくなり、ずっと会社に人生を捧げ続けることはすでに歴史とともに流れていってしまったようです。

また、現代の日本人は自分の人生価値を実現するために、転職する人が増えています。ある調査結果によると、入社後、仕事をする時間が3年未満の新入社員の辞職率が明らかに上昇しているということです。若い人たちは昔の日本人よりもっと生活の質を重視しており、「働き蜂」はもはや若者の求める対象ではなくなってしまったようです。人々は昇給よりレジャー時間を求めるようになりました。そして、若い世代は伝統的な年功序列を打破して、自分の能力に見合う報酬を要求するようになってきたのですが、仕事の量と関係なくなったということです。

ですから、現在の21世紀に入ってから、日本の雇用制度には根本的な変化が起こりつつあり、しかも、こういう変化が今後も人々の仕事に対する考え方にも大きな影響をもたらしますね。どうも、日本人は働く意欲を失ってしまっ

いるようです。ある調査によると、「働く意欲が低い」と答えた割合は、日本では回答者全体の41%くらいです。これは調査対象 16 カ国中、インドに次いで 2 番目のです。以上のことからして、今では、多くの日本人は前の見えない不安と激しい競争に疲れて、すっかり働く意欲を失ってしまったのです。こんな元気のない社員たちがあふれる日本の職場に、活気は戻ってくるることができるかどうか心配しています。

昔の日本人は「もし私が自分の仕事を早く仕上がらなければ、同僚たちにご迷惑をかけるだろう」と思っていました。つまり、絶対に相手にご迷惑をかけずという考え方を実現するために、何をしてもずっと一生懸命に頑張り続けるようになりました。そして、集団の意識も日本人の国民性の一つです。日本人は真面目さと集団の意識を持っていただけに、ずっと努力する日本人が「働き蜂」と言われるからでしょうね。

ところが、今の若者たちは人生観と価値観が変わりつつありますから、日本人が昔の人々ほど真面目ではなくなりません。「働き蜂」はもはや若い世代の理想中のものです。

ですから、もう一度